

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	鈴木 光太郎
所属機関	神戸大学医学部附属病院
・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名	The 40th Annual EAU Congress 第40回欧州泌尿器科学会学術集会
渡航期間	自 2025年3月20日 至 2025年3月25日
・研究内容 ・国際学会・会議内容	転移性前立腺癌に対する臨床研究発表（3演題）
研究成果（要約：800字） P194：Significance of modified Glasgow Prognostic Score and Systemic Immune-inflammation Index as prognostic markers in cabazitaxel chemotherapy for metastatic castration resistant prostate cancer 転移性去勢抵抗性前立腺癌に対するカバジタキセル療法における Modified Glasgow Prognostic Score (mGPS) と Systemic Immune-inflammation Index (SII) の予後予測因子としての有用性を 344 例の自験例を解析して検討した。Cox 比例ハザードモデルにより mGPS における not-A group と SII>963.8 が有意な予後予測因子として同定された。 A514：Prognostic values of early and drastic reduction of prostate-specific antigen in metastatic hormone-sensitive prostate cancer：A real-world multi-intuitional analysis 転移性ホルモン感受性前立腺癌において治療開始後 12 週までに PSA:0.2ng/mL 以下にまで低下することが OS 延長に寄与することを 1296 例の多施設後ろ向き研究において示した。また iPSA>200ng/mL、cT4、Grade Group 5 が PSA 低下不良の有意な予測因子として同定された。 A520：Efficacy and safety of cabazitaxel for ≥80 years of elderly patients with metastatic castration resistant prostate cancer. 80 歳以上の去勢抵抗性前立腺癌に対するカバジタキセル療法の有用性と安全性を、73 例の 80 歳以上の症例を含む 484 例の後ろ向き解析で検討した。80 歳以上では有意に減量投与が行われていたが、PSA 低下率や OS において 80 歳以下と以上で有意差はなく、有害事象のプロファイルも同等であったことから、カバジタキセルは適切な投与量調整により 80 歳以上の症例に対しても有用であることが示唆された。	